朝鮮戦争の完全終結こそ非核化の道

7.29日朝問題講演会

「朝鮮半島の核危機と平和への課題」

講師

李 鍾元

リー・ジョンウオン

（立教大学教授）

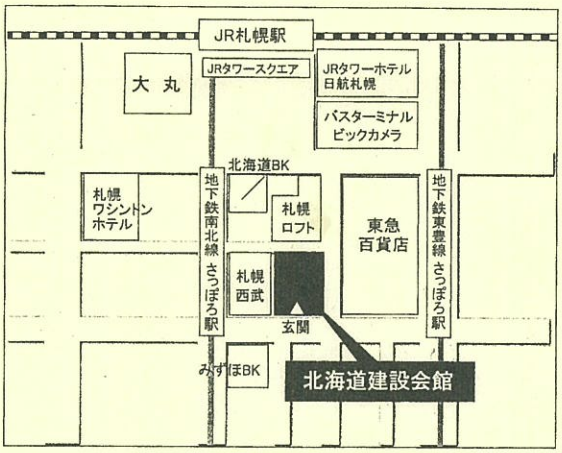
とき　7月29日（水）

18:30～20:30（開場 18:00）

参加費　無料

ところ　北海道建設会館 9F大ホール

（札幌市中央区北4条西3丁目 TEL011-261-6218）



今年1月、米国に民主党のオバマ政権が誕生し、朝鮮民主主義人民共和国（朝鮮）との対話が間もなく始まると誰もが期待したところですが、それは見事に裏切られ、現在は、朝鮮の武器運搬が疑われる船舶への臨検問題で、銃火を交えかねない緊迫した情勢を迎えています。

この状況は、朝鮮の衛星ロケット（ミサイル）の発射、これに対する国連安保理議長の非難声明を無視した地下核実験の強行などがもたらしたとして、「朝鮮は6者協議に戻れ」との主張がある一方で、朝鮮側は、衛星打ち上げは国際条約でいずれの国にも保障された宇宙開発の権利であり、これを否定する国連の非難声明は不当に朝鮮を制約し、圧殺しようとするもので、これらの国との 6 者協議は意味がなくなった。朝鮮は正当な軍事的防衛措置を講じなければならないと主張しています。

私たちは、このような対立が戦争に発展しないことを願います。しかしこの対立が、実は半世紀以上前に米軍を中心とする国連軍と朝鮮人民軍が戦火を交えた朝鮮戦争が、現在も停戦状態のままであるために、今も手法を変えて勝敗を競っているということに視点を据えなければなりません。

戦争に発展しないことを願うとすれば、戦争当事者の米朝両国が勝敗を競うのではなく、対等な立場で和解し、平和条約を結ぶべきです。講師の李鍾元先生には、問題解決の課題と日本政府および日本人が成すべきこと、成してはならないことなどを語っていただきます。

主催　日朝連帯道民会議

〒060-0004 札幌市中央区北4条西12丁目ほくろうビル

TEL:011-210-0200/FAX:011-261-2759